

Exhibition

SICF18 グランプリアーティスト展

とうじょうしんのすけ

東城信之介『Cover up the ここ』

会期 2018 年 1 月 9 日 (火) - 14 日 (日)

会場 ショウケース (スパイラル 1F)

一枚の金属板から立ち現れる、
一回性のイリュージョン

スパイラルは、本年 5 月に開催した SICF18 (第 18 回 スパイラル・インディペンデント・クリエイターズ・フェスティバル) に於いて出展クリエイター 150 組の中からグランプリに輝いたアーティスト・東城信之介による個展『Cover up the ここ』を 2018 年 1 月 9 日 (火) - 14 日 (日) にショウケース (スパイラル 1F) にて開催します。

わずか 0.3mm 厚の銅や銅など多種多様な金属板を酸化させたり、その表面に細かい傷をつけることによって、素材の奥にも手前にも不思議なイリュージョン空間が生み出された、作品の数々。観る者の視力や見る角度、光などさまざまな環境や条件によって、まるで生き物のように絶えず変化して目の前に立ち現れる表情は、レンチキュラーやホログラムとはまた違う、未だかつて経験したことのない視覚体験へと私たちを誘います。SICF18 では、自在にイリュージョン空間を生み出す精妙な技術力と、絵画と彫刻の境界を巡る美術史上の議論を想起させながらも、なお新しい道を提示したことが高く評価され、グランプリ受賞に至りました。

本展は、各国のアートフェアへの出展や、中之条ビエンナーレ (群馬) の立ち上げメンバーとして活躍するなど、長くキャリアを積む一方で、東京のアートシーンにおいて登場する機会が少なかった東城の、東京・青山での初の個展となります。

SICFでの受賞を機に今後がますます注目される作家による本展、この機会にぜひご取材、ご掲載を検討くださいますよう、よろしくお願いいたします。



(上) 『rakubomu』 (2017) 銅板・鍍 1,800×900 mm

「SICF18」グランプリ受賞作品

(下) 本展新作イメージ

ご掲載に関するお問い合わせは下記までご連絡ください。
スパイラル/株式会社ワコールアートセンター 広報部 浅野仁美
〒107-0062 東京都港区南青山 5-6-23
TEL 03-3498-5605 FAX 03-3498-7848
E-mail press@spiral.co.jp SPIRAL WEB <http://www.spiral.co.jp/>

spiral®

■ 出展作品について

ー タギングシリーズ

時間経過や誰かが触れた痕跡をなぞり、上書きして自分を残すことを目的とするタギング(Tagging)というシリーズの新作を発表します。過去には工業製品、車、橋など硬質で重厚な素材にタギングを行ない、そこにあった形と意味を共に解体することで自身の存在を付与していくようなインスタレーションを展開してきました。本展では、ギリシャの街中に残された落書きを撮り溜めた写真がタギングの対象となります。

一なぜ、ギリシャの壁画を青山に

経営破綻した現代のギリシャでは、2000年前の豊穡の時代の痕跡を今に留めたまま街が存在し、道端には長い時間に起きた変化への複雑な思いや感情が湧き出るかのように無数のグラフィティが存在するのではないかと語る東城。その一つひとつに、人の内に眠るパワーや喜び、もがきなどを見出す東城は、一方で整然とした東京・青山に主張のなさを感じます。開発が繰り返され、過去をかき消し、思想すら蓋をするかのようにして生活を送る日々の中で、自身や周辺、過去や未来との対話を促す時間と空間の意義を、鑑賞者に投げかけようとしています。

SICF18 審査員コメント

戴前知子 (東京都現代美術館 学芸員)

シンプルな技法ながら、素材の表面の奥にも手前にも自在にイリュージョンを発生させる高い技術は絵画と彫刻の境界をめぐる美術史上の議論を想起させつつも、今なお新しい道があったという驚きがあった。素材を自在にコントロールしながらも、その特性に従って作り出された作品は誰かの手で作られたものというよりは、目の前で生成しているような不思議な現れ方をするのも印象的。

張熹 (藝倉美術館 チーフディレクター)

金属を切削することでガラスのように透明な表現を生み出している点において、マテリアル(材料)に対する理解が新しいと言える。また、完成度が高い。

■プロフィール

東城 信之介 Shinnosuke TOJO



Photo by Halca

略歴

1978 長野生まれ 神奈川在住

2004 東京造形大学美術学科比較造形卒業

2005 東京造形大学研究生修了

主な受賞歴

2017 SICF18 グランプリ受賞

2013 TAGBOAT FES 審査員特別賞受賞

2012 Young Artist Japan グランプリ受賞

2006 明日への展望展 俊英作家賞受賞

2005 第三回山本鼎版画展 佳賞受賞

主な活動

2017 中之条ビエンナーレ(中之条/群馬)

2017 SICF18 (スパイラルホール/東京)

2016 UNTITLD (マイアミ/USA)

2016 Sharing the Future

(Chiangmai University Art Centre/タイ)

2016 ArtFair London 2016 (ロンドン/UK)

2016 Art Stage Singapore (シンガポール)

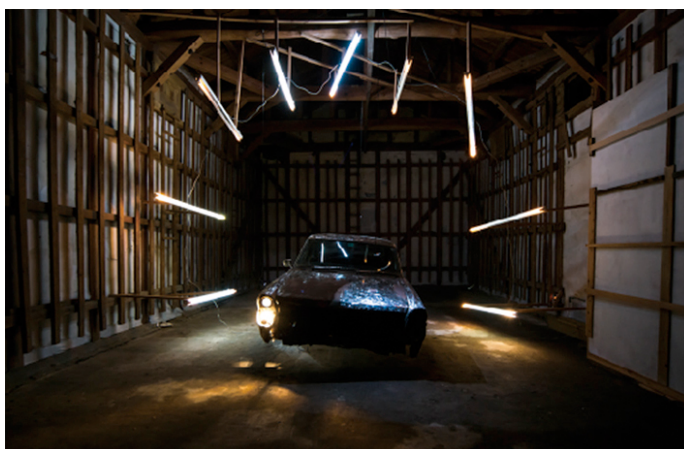
2013 マツシロオルタナティブ(池田満寿夫美術館/長野)

2008 THE EAST and THE EAST(上野の森美術館/東京)

参考作品：東城信之介 過去作品



『091』(2016) 真鍮板・銅
1,700×800 mm



『shakasou』(2015) 「中之条ビエンナーレ 2015」出展作品
Tagging シリーズ



『gando』(2017) チタニウム板・アクリル
1,000×915 mm



『TIME MARGIN』(2017) 廃材・おもちゃ
3,300×3,300×4,500 mm Tagging シリーズ

■ 作品販売について

本展に連動して、スパイラルのエントランスにて、作品の展示販売をいたします。

販売期間： 2018年1月4日(木) - 14日(日) 11:00-20:00

会場： MINA-TO (スパイラル 1F)

開催概要

とうじょうしんのすけ

SICF18 グランプリアーティスト展 東城信之介『Cover up the ここ』

会期	2018 年 1 月 9 日 (火) — 14 日 (日) 11:00—20:00 会期中無休
会場	ショウケース (スパイラル 1F) 東京都港区南青山 5-6-23 東京メトロ銀座線・千代田線・半蔵門線「表参道」駅 B1、B3 出口すぐ
お問い合わせ	03-3498-1171 (スパイラル代表)
入場	無料
主催	株式会社ワコールアートセンター
企画制作	スパイラル

SICF (スパイラル・インディペンデント・クリエイターズ・フェスティバル)

スパイラルが若手作家の発掘・育成・支援を目的として 2000 年から開催しているアートフェスティバルです。ゴールデンウィーク期間中、公募によって選出された、さまざまなジャンルのクリエイターを紹介しています。2018 年 5 月で 19 回目を迎える SICF は、従来のブース出展形式の「EXHIBITION」と、新たに設立したパフォーマンス部門「PLAY」の 2 部門を展開、既存の価値観に捕われない意欲溢れるクリエイターを募集します。募集および開催概要の詳細については 2017 年 11 月 15 日に SICF ウェブ(www.sicf.jp) で発表します。



SICF18 会場風景 「EXHIBITION」



SICF18 会場風景 「PLAY」



参考資料：SICF18 受賞者

■ EXHIBITION

グランプリ：東城信之介
 準グランプリ：クラトミタカユキ
 準グランプリ・オーディエンス賞：なかやまありさ
 石田尚志賞：長雪恵
 栗栖良依賞：黒田恵枝
 張熹賞：角谷沙奈美
 中村茜賞：金親敦
 森永邦彦賞：河本蓮大朗
 藪前知子賞：名倉達了
 スパイラル奨励賞：福重美幸子

■ PLAY

最優秀賞：関川航平
 栗栖良依賞：tantan
 中村茜賞：西尾佳織ソロ企画

受賞作品・審査員のコメントについての詳細は
 下記をご覧ください。

<http://www.sicf.jp/archives/sicf18/02-7.html>